

CHECK POINT!

- ✓ 写真から映像まで、最先端の施設を準備
- ✓ アナログもデジタルもバランスよく学べる
- ✓ ドローンや水中撮影、8Kなどの実習も



8K、4Kの機材がある赤木ゼミの教室。カメラとレンズだけで1,000万円以上！



撮影セットを同時に4つ組むことが可能な「大スタジオ」。今後、全てのライティングのLED化が行われる予定。



デジタル実習室では、画像編集ができるパソコンだけではなく、プリンターなどデジタル作品制作に必要な機材が完備。



「水中撮影講座」の様子。世界で通用するダイビングの資格、国際Cカード認定が受けられるカリキュラムを実施。



暗室は、共同で使用できる「大暗室」と個室暗室が用意された「小暗室」、さらにカラー暗室も完備されている。



360°の映像を投影できる「VR実験ドーム」。東京五輪での360°リアルタイム中継実施も目指しているそう。



一般社団法人「ドローン撮影クリエイターズ協会」の指導のもと、安全で確実なドローン操作を学ぶことが可能！



〒585-8555
大阪府南河内郡河内町東山469
☎0721-93-3781(代)
近鉄南大阪線・長野線 喜志駅
より、スクールバス(無料)、
または金剛バス(阪南ネオポリ
ス行)東山(芸大前)下車



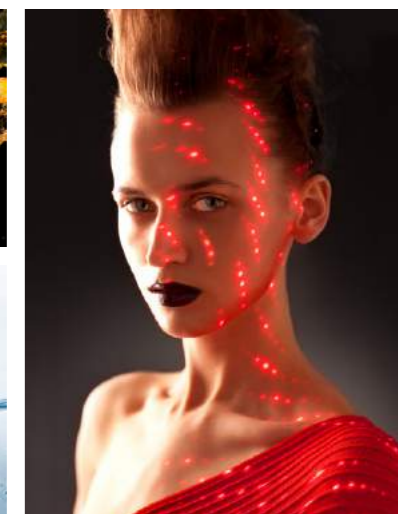
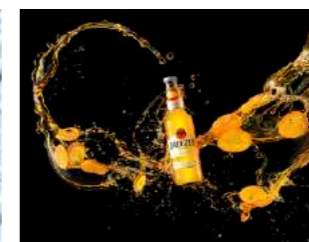
INFORMATION

- オープンキャンパス・体験入学
7月14日(日)・7月15日(月) ※体験入学は要予約
 - プログラム 写真学科VR実験ドーム・8K映像体験
写真表現の様々な可能性を、上記記載の実験ドームで実施。バーチャルリアリティー空間で音と写真がコラボレーションする世界を体験できる。
- その他、各学科のさまざまなプログラムを用意！詳しくはHPより

大阪芸術大学

芸術学部 写真学科

「技術」と「考え方」の両輪で
写真家として生きる術を身に着ける！



本田晋一先生

ほんだしんいち / 1980年代から広告写真家としてシンガポール、ロンドン、NY、上海など世界各国で活躍。シンガポール、アメリカ、日本で広告賞受賞。画像処理黎明期からの技術と知識を活かし、当校にて授業を受け持つ。

日本最大の暗室設備を有し、銀塩写真や古典技法はもちろん、水中ダイビングやドローンの技能認定資格が取得できる授業の新設、4K・8Kの動画機材を導入も。最新の技術や情報を意識した授業を行う、西日本最大の総合芸術大学、大阪芸術大学の写真学科。

長年海外で広告写真家として活躍してきた本田晋一先生に、2019年度からスタートする「アドバタイジングフォト」について聞きました。

4年制大学では珍しい「広告写真」に特化した授業ですが、どんなスキルが身に付くのでしょうか？

本田 いちばんのポイントは「アマチュアとの差別化」。卒業後に、広告写真業界で生き延びていくための授業を目指しています。授業は、技術を学ぶ「アドバタイジングフォトコース」と、企画やデザインまで学ぶ「アドバタイジングフォトゼミ」の2つに分けています。「コース」では、モデルから化粧品まで多様な主題のライティングやレタッチを学びます。アートと異なり広告は短期的に「答え」が出るので、感性だけでなくロジカルな思考と撮影スキルが必要です。卒業後にプロとして自立できる知識と技術を教えたいです。

—— 広告写真は、技術を磨くのが難しいというイメージもありますが…

本田 広告写真は一見複雑そうですが、簡単な技術の積み重ねであることが多いです。だから基礎から順番に学べば到達できると思います。カメラも進化

している今、生徒が持っている機材で私たちと同じレベルで闘えるということを教えたいですね。

——「ゼミ」は違う内容なのですか？

本田 「ゼミ」では、撮る技術だけでなく、その写真を使った広告を企画、デザインするところまで教えます。特にインターネットを使うことによってメディアを使いこなす感覚を育てたいです。「撮る」だけでは他の写真家との差別化がしづらい現在、自分でデザインやWebサイト、紙媒体などのアウトプットまでをコントロールできれば大きな武器になる。広告においてもっともインパクトの強い「写真」のクオリティを上げながら、それを活用してアウトプットまで手掛けられるようになることを目指します。

—— 写真家として生きていく戦略的な部分も教わるのでしょうか？

本田 ネットにより激変する業界で生き残るためには、自分の力と位置を冷静に分析する必要があります。自身が上位20%に入れるニッチを探し、自己のスキルの適正化を測る。自己をプロデュースする重要性をゼミでは伝えたいです。これは、写真家以外でも通用する方法論だと思います。

—— 写真家として確実に仕事を続ける道が4年間の授業で見えそうです。

本田 今はアシスタントを経験せず写真家になるケースが非常に多い。プロになったとき、大学で技術と考え方を学ぶことの真価がわかると思います。